

研究テーマ：「書く力」を伸ばしていくための指導

所属 大川村立大川中学校

氏名 中井和重

R G J H 5

## 1 研究の背景

- ・すべての授業で日本人教員2名、ALT1名の計3名でのチームティーチングで授業をすすめている。
- ・ALTは、英語を母国語とする人としての視点から、学習の範囲内で、会話や教科書の内容だけでなく、文化や日常生活の様々な情報等をインプットしてくれている。
- ・意欲的な生徒が多く、少々のミスや失敗を恐れることなく、前向きな気持ちで授業に参加している。
- ・しかし、四技能において、学習した事柄を定着させて、次の学習に役立てていくことができていない生徒が多い。特に心配なのは、書く活動であり、ある課題や内容を、正しく言えたり読めたりしても、同じものを書くときにはかなりの生徒が苦労をしながら問題にあたっていることが多々ある。
- ・生徒たちの積極的な気持ちを大切にしていきながら、英語を書くということが苦にならないようにするために、様々な工夫や改善が必要であると思われる。

## 2 リサーチクエスチョン

- ・新出文型などの既習事項を理解した上で、自分自身について、あるいは与えられた条件・課題について、正しい英文が書けるようにするためには。
- ・会話や質疑応答の時に、正しい英語を使ってたずねたり返事をしたりできるようにするためには。

## 3 予備調査

単語テストなどでそれまでに学習した語句の定着を目指したが、成果にまでは至っていない。テスト範囲は比較的やさしい単語で、普通の授業中にALTとの会話や応答などで比較的多く使われているものである。しっかりと身につけて、活用できるようにするためには、さらに工夫・改善が必要である。

予備調査1 授業観察の結果

予備調査2 英語力を示すデータの一部

### 予備調査3 アンケート、授業評価の結果

#### 4 仮説の決定

- ・発音とスペリングを結びつけて学習し、「書くこと」についての評価方法に工夫を加えれば、生徒の語い力が増して、達成感をもつことができるのではないだろうか。

#### 5 計画の実践

- ・書くことの指導について。  
大文字、小文字のミスは、はじめは問わない。  
発音の時の、口や舌の動きを図案化して示す。  
補充発展学習での音読練習（必要な場合には、単語にカタカナで読み方を書くようアドバイス）。書くカプラス読む力
- ・単語リストを作って、2～4回に分けての単語テストの実施（1学期も同じ取り組みを行なったが、単語の量を少なくした）
- ・生徒に使えるようになってもらいたい、覚えておいてもらいたい連語や表現等を教室の掲示板に常に張り出しておいて、授業の際に活用。

#### 6 実践の結果と検証（成果と課題を含む）

- ・単語テストの平均点  
2学期前半（100点満点）  
14.4点 23.2点  
2学期後半（～10点満点、100点満点）  
6.2点 6.4点 7.0点 73.6点
- ・ALTとの活動やゲームでは、掲示物を利用して答えたり、返事をしたりする生徒もいるが、まだまだごく一部である。
- ・ある英語が苦手な生徒は、1学期は授業中うつむいている時間もあり、しんどそうな表情をみせることもあったが、単語テストで好結果を出したことや、何より本人が頑張ろうという気持ちを持ち続けたことで、授業を楽しもうとしている様子が、これまで以上にうかがえるようになった。しかし、すべての生徒が変わったというわけではなく、彼らの興味や関心を引きつける授業づくりには、まだ不十分なことだらけである。授業者としての取り組み不足を痛感している。自分の授業のどこが原因で、生徒の意欲が引き出せたのか、あるいは（こちらが大多数だが）意欲を引き出せていないのかを、もう一度これまで行ってきたことを振り返り、この研修で学んだことや、TTを行なっている同僚教員達のサポートも参考にしながら、じっくりと考えていき、これからの授業づくりに役立てていきたい。